

2017年7月

グリーンクラブだより

Vol. 14

グリーンクラブのみなさん、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。あまり雨が降らないうちに梅雨があけてしまいましたね。暑い夏がやってきましたが、体調に気をつけて作業をしましょう。

＜夏の花壇管理＞

夏ならではのお手入れをご紹介します。秋まできれいな花壇づくりをしてみましょう。

○インパチェンス○

梅雨明け後の強光と乾燥にあうと弱ってしまいます。水切れに注意し、土が適度な湿度を保つようにしましょう。



○コリウス○

切り戻し後に伸びた新芽は、一度乾かすと葉先が茶色く変色してしまうので水切れに注意し、花穂は摘み取りましょう。



○ジニア○



梅雨あけ後は茎がよく伸びるので、秋まで咲かせるには半分ほどに切り戻しましょう。また、うどんこ病に注意しましょう。

真ん中の部分が上の方まで盛り上がってきていたら咲き進んでいる証拠



花がら摘み

～フラジルの花2種～

○ペゴニア・セントポールス○

こまめに花がらを摘み取り、蒸れないようにしましょう。乾かし気味でよいですが、水切れすると葉が茶色になってしまうので注意しましょう。



○サルビア○

乾燥が苦手です。こまめに水やりをしましょう。8月中旬以降に株の2/3程度まで切り戻しをすると、秋によく咲くようになります。



～多年草のお手入れ～

○センニチコウ○

高温乾燥下でもよく育ちますが、乾燥しすぎるとハダニが発生するので、葉水で防ぎましょう。ドライフラワーにするには、日陰で逆さに吊り下げ、乾燥させます。



○マーガレット○

過湿による根腐れに注意しましょう。枝が密集している株は、枝をすかして風通しをよくしましょう。アブラムシに注意しましょう。



《草花の病気》

病名：うどんこ病

症状：若い葉の表面や花梗（花序の中央の軸から分枝し、各々の花をつけている柄の部分）に白いうどん粉状のかびが生え、葉は波打ち、巻き込む

防除：病気の葉、枝は切り取りましょう。枯れ葉や花がらはこまめに取り除き、通気性をよくすると発生しにくくなります。

病名：モザイク病

症状：葉はやや黄変し、葉脈は濃緑色となり、若い葉は軽く波打つ

防除：ウィルス病の一種で、一度かかってしまうと、治療することができません。株ごと抜き取り、残根もていねいに取り除きます。補植する場合は残根が完全に腐敗してからがよいので、夏を経過した晩秋か翌春から植えるようにしましょう。

ご意見・お問い合わせはお気軽にどうぞ

目黒区みどりと公園課利用係

〒153-8573 目黒区上目黒2丁目19番15号

Tel: 5722 - 9242 Fax: 3792 - 2112

